皆様　ＥＳＤＧｓ通信　手島です

　今回お伝えする内容は2つ。

①　北海道ＥＳＤ活動支援センターが、「画期的なＳＤＧｓフェスティバル」【ＳＤＧｓ調査隊】を開発されたこと

②　教育新聞の３連載「ＥＳＤとカリキュラムマネジメント」に第３回「カリキュラムマネジメントへの道」が掲載されたこと

です。

　実は、９月４日の札幌市太平南小でのＳＤＧｓ授業提供のために３日に北海道入りしたのですが、打合せまで３時間あったので北海道ＥＳＤ活動支援センターを訪問しました。そこでの２時間の話し合いや情報が活かされ、画期的なＳＤＧｓイベントの開発につなげてくださいました。

　今年は各地でＳＤＧｓのイベントが盛んになってきました。そこにＳＤＧやＥＳＤの講演会を併設する形も見られます。しかし、講演会はイべントの付け足しのような扱いになりがちです。企業やＮＰＯのブースが並び、自分たちの取り組みを紹介していたとしても、参加者は単なるイべントとして集まって飲み食い・買い物、あるいは多少の体験で終わり、意味のある学びの場とはなりにくいのが現状です。

　しかし、今回の企画では

①出展企業が参加料をとって体験コーナーを運営するという体験型イベントにすること

②ＥＳＤ活動支援センターが短時間のＳＤＧｓワークショップを開き、その参加者を「ＳＤＧｓ調査隊」として会場に送り出し、各ブースのポスターにシールを貼ったり、付箋のコメントを貼ったりしながら学び・楽しむ

③ワークショップのプレゼンは、手島が各地の学校等で提供しているＳＤＧｓ導入授業のストーリーを見事に活かしたものです。グレタさんの活躍も上手に紹介している

④ワークショップのプレゼンは、短時間のもので、一日に何回も繰り返され、「ＳＤＧｓ調査隊員」を会場に次々送り込む

⑤プレゼンは学生さんにも協力してもらう

というものです。

・チラシには「ＳＤＧｓ調査隊」の案内が不足している

・調査隊員が各企業ブースのポスターへのシールを貼る際には、子どもなりにＳＤＧｓにどれだけ貢献しそうか５段階で評価してその数字をシールに書き込んで貼ること（思考力・判断力につながりますね）

・シールだけでなく、コメント用のポストイットに「良かった点や改善すべき点、疑問に感じた点」などを積極的に書くようにすすめること（批判的な思考力や表現力につながります）

・子どもたちには（大人ももちろん）「みんなの『いいね』やアドバイスが、北海道の未来につながるかも知れません。しっかり調査してきましょう！」と送り出してください

などを助言したところです。

「出展企業と体験内容」と「ＷＥえべつ祭りチラシ」のデータはこの本文に続いて表示しますが、「えすでぃじーずを学んでＳＤＧｓ調査隊員になろう」のプレゼンＰＤＦは添付資料として送信いたします。私のアドバイスで修正された部分は反映されていませんが、ご了解ください。

また、この取り組みの元になった「海と子どものＳＤＧｓ、手島授業用プレゼンデータ」はＰＤＦにしても容量が大きい（14Ｍ）ので、ホームページ「ＥＳＤ・ＳＤＧｓを推進する手島利夫の研究室」の新着情報か指導者用のコーナーに入れておきます。パワーポイントでほしい方は、メール等でご連絡ください。

メール：contact@esdtejima.com



